

タガメ



環境省指定絶滅危惧種、鳥取県指定絶滅危惧種
旧西伯地区にて 卵を守るオス

(撮影：桐原佳介)

タガメは、私が南部町の自然の豊かさをお話しする時に、よく引き合いに出す生き物の一つです。平成15年の夏、阿賀の丸合の駐車場で、2匹のタガメがつぶれて死んでいました。それがこの町で最初にこの虫に出会った場面でした。田んぼやため池の環境の変化により、全国的にも珍しい生き物となつてしまったタガメが、南部町にいと知つた時は衝撃的でした。現在、私が知つている町内のタガメの生息地は2カ所のみ。けつして安心できる状況ではないようです。

日本最大の水生昆虫であるタガメは、ガマやヨシなどが岸辺に生え、餌となるオタマジャクシやメダカなどの小魚が豊富にいる場所でないとは見ることができません。また、タガメは農薬や生活排水にも弱いといわれています。タガメがいる場所には、同じく県の絶滅危惧種に指定されているゲンゴロウや、その仲間のガムシなど、多くの水生昆虫と一緒に見られることが多く、タガメは生物多様度の高さを示す重要な生き物です。

かし、せつかくタガメがいる池でも、コイやブラックバスなどが放流されてしまうと、彼らはすぐに姿を消してしまいます。

全国に1700あまりの自治体がありますが、タガメが生息している市町村はそう多くはありません。例えば長野県では過去30年発見されておらず絶滅したと考えられています。

ある講演会で生きたタガメを持つて行ったら、地元の方は、「どんがめ」と懐かしそうに呼んでいました。水辺環境の指標生物であるタガメ。彼らがこの町で生き続けていくには、ため池や田んぼや水路を管理している方々の意識が必要で

タガメが住む豊かな水辺を、未来の子どもたちに残してあげたいものです。



左：似た仲間のタイコウチ
右：タガメ

自然観察指導員 桐原真希